

# 施策評価管理シート

2012(平成24)年7月作成

担当部局名	部長名	連絡先 (担当室名)
生活環境部	夏秋 佳生	63 - 7496 (環境対策室)

施策体系	政策	2	美しい自然に包まれた、憩いと潤いのある暮らし
	基本施策	2	循環型社会の創造
	施策	2	<b>ごみの減量化とリサイクル</b>

## 1. 施策の基本方針

Plan

- ・ 市民、事業者、行政が一体となって、ごみゼロ社会を目指します。

## 2. 目標

重点目標

Plan

- ・ ごみゼロ社会を目指すアクションプログラムに基づき、市民、事業者、行政が協働で、ごみの減量と資源化に取り組みます。
- ・ 燃やすごみに多く含まれている生ごみの資源化を推進し、ごみの減量を目指します。
- ・ 草木類の資源化を推進し、資源循環型社会の構築を目指します。
- ・ ごみ減量の基本である3R(リデュース、リユース、リサイクル)を推進します。
- ・ 不法投棄ごみを一掃するため、監視パトロール及び早期撤収に努めます。

目標達成に向けた課題

Plan

- ・ 燃やすごみに約6割(重量比)含まれている生ごみの資源化収集は、ごみ減量に有効な施策であります。収集の市内全域実施には、市民が取り組みやすい方法である週2回の燃やすごみに加えて、生ごみ専用収集を行うと新たな収集経費と民間堆肥化施設での処理経費が発生します。
- ・ 草木類の資源化を進めるために、せん定枝粉碎処理車を購入し、地域や学校等に出向いて、せん定枝の資源化と資源循環型社会の構築を啓発していますが、人件費と車両メンテナンス費用等が必要となります。
- ・ 不法投棄の監視パトロール、不法投棄物・不適正排出ごみの撤収等を委託または緊急雇用創出事業を活用した雇用で行っているが、継続には費用が必要となります。

施策指標(目標)及び達成状況

Plan

Do

施策指標(目標)の内容 (単位)		現状値 (H20)	2009 (H21)	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2015 (H27)	進捗率
一人一日あたりのごみ排出量 (g)	目標	-	-	-	-	959.0	942.0	
	成果	1,006.4	923.5	900.0	902.7			100%
家庭から排出される一人一日あたりの燃やすごみの量 (g)	目標	-	-	-	-	335.0	321.0	
	成果	364.7	358.6	353.0	355.0			22%
家庭から排出される一人一日あたりの燃やさないごみの量 (g)	目標	-	-	-	-	37.1	36.5	
	成果	37.6	31.7	38.1	38.9			0%
ごみのリサイクル率 (%)	目標	-	-	-	-	30.5	31.5	
	成果	27.3	30.3	30.9	31.1			90%

## 3. 取組内容

課題解決への取組内容

Do

- ・ ごみゼロ社会を目指すアクションプログラムに基づき、市民、事業者、行政の実践行動を展開しました。
- ・ 生ごみの資源化の推進にあたっては、方法や課題を見いだすことを目的として、モデル地区で試行事業を行ない、結果を検証しながら進めました。
- ・ 草木類の資源化の費用対効果を検討し、有効な方法で取組を進め、平成23年度は、せん定枝粉碎処理車による地域での資源化作業と家庭用のせん定枝用小型破砕機の貸出しに加えて購入費補助を行いました。
- ・ 不法投棄対策は、関係機関及び地域と連携し、有効な監視パトロール体制の構築を進めました。

地域等との連携、協働に向けた取組

Do

- ・ 地域や学校等に出向いて、環境学習を強化しました。
- ・ 名張市地域環境推進員を地域から適任者を選出いただき、情報を共有し、ごみ減量・資源化の推進、不法投棄の根絶を目指しました。
- ・ 不法投棄については、地域、警察、三重県、郵便局、河川管理事務所、ダム管理所等と連携して対策を行いました。

4. 施策達成のための事務事業及び評価

(合計 7 事業)

Do

Check

事務事業シート番号	事業名・担当室名 (事業名の 印は、市長の重点施策事業を示しています)		事業費 (単位：千円)		事務事業シートでの今後の方向	施策達成への貢献度	施策達成への重要度
			2010 (H22)	2011 (H23)			
1086	ごみゼロ・リサイクル推進事業	環境対策室	10,177	9,585	継続(事務改善)	A	A
1087	環境委員活動事業	環境対策室	1,484	1,978	継続(事務改善)	A	B
1089	不適正排出ごみ処理事業 (緊急雇用創出事業)	環境対策室	9,964	14,874	H23完了	A	A
1090	不法投棄対策事業	環境対策室	3,552	2,418	継続(事務改善)	A	A
1095	草木類リサイクル事業	産業政策室	9,976	9,976	H24完了予定	B	C
3041	生ごみ処理機器購入費補助金	環境対策室	499	560	継続(現行)	A	B
6075	ごみ対策費	環境対策室	115	112	継続(事務改善)	B	B
合計(単位：千円)			35,767	39,503			
小計(うち、一般会計分)			35,767	39,503			
小計(うち、特別会計・企業会計・組合会計分)			0	0			

5. 部局による施策評価

Check

評価
事業内容・規模等の見直し
成果・評価理由
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現行のごみゼロ社会を目指すアクションプログラムにおいては、生ごみの資源化収集を市内全域での本格実施を目指していましたが、収集回数、新たな費用の財源確保、臭い対策等の課題から実施を見直すことになりました。</li> <li>・ 草木類の資源化については、せん定枝粉碎処理車による地域での資源化作業及び学校等での環境学習の開催、家庭用のせん定枝用小型破砕機の貸出しに加えて購入費補助を行い、施策を推進しました。</li> <li>・ 平成23年度より環境委員を委嘱制度から、地域から選出、届出方式としましたが、円滑な移行を行いました。</li> <li>・ 不法投棄対策として、監視パトロール及び投棄物の撤収をシルバー人材センターへの委託と緊急雇用創出事業を活用して行いました。</li> <li>・ 平成20年度に家庭ごみの有料化をして以降、ごみ量の激減を図ることができましたが、4年が経過し、家庭から排出される一人一日あたりの燃やさないごみの量が増加傾向にあります。</li> </ul>

6. 今後の施策の方向性、改善方法

Action

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ごみゼロ社会を目指すアクションプログラムの改訂にあたっては、名張市快適環境審議会委員、庁内、議会、名張市地域環境推進員、広く市民の意見を聴取しながら進めます。</li> <li>・ 生ごみの資源化については、収集回数、新たな費用の財源確保、臭い対策等の課題と費用対効果を検証し、次期ごみゼロ社会を目指すアクションプログラム(計画期間平成25年度～平成27年度)に方法等を盛り込みます。</li> <li>・ 草木類の資源化については、さらに地域の環境美化活動、学校での環境学習と連携して進めます。</li> <li>・ 不法投棄対策は、地域、団体等との連携を行い、有効な人材活用と補助事業等の活用に努め実施します。</li> <li>・ 平成20年度に家庭ごみの有料化をして以降、4年が経過し、リバウンド傾向が伺えることから、資源化、減量化に向け広報等を通じて、機会があるごとに継続的、定期的な啓発に取り組んでいきます。</li> </ul>
--

7. 総合評価

評価
B 施策達成に向けた取組や今後の施策展開が適切に行われている
評価理由及びその他(意見)